



ご挨拶

鳥取県木材協同組合連合会会長 前田 八壽彦

今年度も5月となり定例の総会が続きお忙しくされていると思いますが、皆様ご健勝のことと思います。新型コロナウイルスは相変わらずの状態ですが、感染対策をしながらウィズコロナで活動等をしなければならないことを痛感する今日この頃です。

さて、昨年春の米国発のウッドショックに始まり、本年2月に始まったロシアのウクライナへの侵攻によるロシア材の禁輸による合板材の高騰と木材を取り巻く状況は目まぐるしく変動しています。

私たちは、外的要因はさておき県産材の活用を更に進めていくことが、本県経済を活性化するとの思いを念頭に本年度も活動していきたいと思っています。

当会の事務局長は、4月より船木事務局長が就任しましたのでよろしくお願いいたします。

1 鳥取県内の木材市況について

スギ材：令和2年6月の石谷林業での4メートル材のスギの価格は9,000円でしたが、以後じりじりと上昇しており、令和3年6月では15,000円、令和4年3月に21,000円となっています。

一方、令和2年6月の生山市場での4メートル材のスギの価格は9,000円でしたが、以後じりじりと上昇しており、令和3年6月では13,500円、令和4年3月に18,000円となっています。

ヒノキ材：令和2年6月の石谷林業での4メートル材のヒノキの価格は14,200円でしたが、以後じりじり上昇し、令和3年8月に45,000円の最高価格となりましたが、令和4年3月には26,000円となっています。

一方、令和2年6月の生山市場での4メートル材のヒノキの価格は13,200円でしたが、以後じりじり上昇しており、令和3年9月に38,000円の最高価格となりましたが、令和4年3月に27,000円となっています。

これからの原木価格の市況については、輸入材の減少傾向は続き、国産材への転換による需要拡大により目の離せない状況が続くと予想されています。

2 ウッドショックのその後状況について (ナイス(株)による情報提供)

令和3年3月頃から輸入材、国産材に限らず全ての木材商品の物不足、価格の上昇で以前の価格の2～3倍となり、11月頃高止まりました。供給面では不足する商品は無くなり在庫過多の状況であったが、ロシアのウクライナへの侵攻により在庫は整理されて、状況は一変しています。輸入材の先物相場から少なくとも半年先までは価格の下落はないと予想されています。

3 ウクライナ・ロシアと合板への影響について (ジャパン建材(株)による情報提供)

国内針葉樹合板メーカーの一部はロシアから単板を輸入しています。ロシアは日本に輸出を禁止しましたので今後2～3割程度生産ができなくなるのではと言われています。メーカーはロシア材の代替品の確保に苦しんでおり、国産材原木価格の上昇、針葉樹合板価格の上昇に続く可能性があります。

4 県内戸建て住宅着工戸数(木造)について

令和4年2月末で県内戸建て住宅は1,638戸で令和2年度末の1,621戸をすでに上回っております。同月比の令和3年2月末では111パーセントの増、令和2年2月末では106パーセントの増となっており、県内のウッドショックの影響はないと思われます。しかしながら、今後、木材関係の材料費が上昇することも予想されており、その影響を注視する必要があります。

5 令和3年度のとっとり住まいる支援事業の利用状況について

令和3年度の交付申請額は、673件・344,690千円(令和2年度は714件・341,058千円)、県産材使用量は8,363立米(使用量区分は19立米以下が全体の約92パーセント)、県産規格材活用(JAS製品)は、635件(全体の94パーセント)、6,840立米(県産材使用量の約82パーセント)、県産機械等級区分構造材活用は、366件(全体の54パーセント)、3,075立米でした。この制度は、平成17年度に創設され鳥取県の住宅木造建築の促進に多大な貢献している制度であり、順次その支援内容は充実されています。

この制度は県産材の需要拡大にとっては、かけがえのないものであります。県民の皆様信頼される木材製品づくりに会員一同頑張りたいと思います。

6 令和4年度鳥取県木材協同組合連合会の事業計画について

鳥取県の支援により米国発のウッドショックによる輸入材の減少や新型コロナウイルスの蔓延防止のための巣籠需要による住宅着工の伸展による国産材の需要拡大に対応するよう製材品の安定供給体制の整備を支援します。新たな取り組みとして木材乾燥技術の第一人者の岡山県在住の河崎弥生氏(鳥取大学OB・農学博士)を講師に乾燥材の生産性と品質の向上の研修会を行い人材育成に取り組みます。また、昨年度に引き続き、人工乾燥・天然乾燥併用による平角の乾燥時のひび割れ防止の方策を検討することに取り組めます。

<令和4年度 県予算の内容>

- 木材加工流通等施設整備事業費 60,484千円
- 利子補給費 1,200千円
(人工乾燥・天然乾燥併用のための原木購入費用の利子補給)
- 乾燥材生産指導者育成及び木材乾燥技術向上現場診断 1,451千円

なお、県に6月県議会で利子補給制度の充実を図り、製材業の皆様が融資制度の活用ができるように支援をお願いしています

7 県営繕工事で使用される鳥取県産木材製材品の積算単価の改定について

令和4年4月18日付けで県が本年度の鳥取県産木材製品に係る市場調査を実施し、単価を改訂されました。昨年5月に単価設定をされていましたが、原木価格が上昇し、更に木材乾燥に使用する重油、灯油が高騰し経営環境が厳しいなかでの改訂であり、干天の慈雨となりました。

8 令和4年度全木連助成事業「JAS 構造材実証支援事業」について

(今年度より名称変更となりましたが昨年度と内容はほぼ同じです)

低層の戸建て住宅を除く建築物(施主が国以外)の実証的取り組みに対し、構造材の調達費用の一部を助成するものです。

対象物件、支援対象、採択要件は、全木連、県木連ホームページをご覧ください。なお、助成金額は構造用製材、ツーバイフォー製材、構造用集成材、構造用LVLに対して1立米66,000円、CLT 1立米に対して140,000円です。

9 令和4年度鳥取県非住宅木造建築拡大推進について

県産材を使用した非住宅の新築、増築工事若しくは改築に助成するものです。対象物件は全木連助成事業に準ずるものです。なお、建築主が国、県、市町村であるもの及び住宅を除きます。

支援対象は建築主、設計者、施工者ですが詳細は鳥取県並びに県木連のホームページをご覧ください。

また、上記8の全木連助成事業と併用することが出来ますのでご利用ください。

10 全天候型実習施設の開所式について

令和4年4月15日に平井知事、松田県議会農林水産常任委員会委員長他出席のもと開所式が行われました。鳥取県の林業労働災害は、平成27年までは年間30件前後発生し、それ以降は年間20件以下で推移していました。しかし令和2年には、死亡災害を含む24件の労働災害が起きました。労働災害の内容はチェーンソー絡みのものが5割程度を占めており、チェーンソーの操作練度のアップが課題となっています。

そこで、県は鳥取林業技術訓練センターに隣接して全天候型実習施設を整備し、荒天時でも訓練ができるようにされたところです。これにより、倉吉市の福祉施設のグラウンドで実施していた林材業労働災害防止協会鳥取県支部のチェーンソーの特別講習や林業事業体協議会等のチェーンソーの訓練をここの拠点で行うことになりました。今後しっかりと活用させていただきます。

また、この施設のオープンを記念して、5月3日にオカリナ演奏会や木工教室を開催しました。

11 令和3年度二十一世紀の森の各館の利用状況について

二十一世紀の森はトッキーノ館・とっとりピノキオ館・グートホルツで構成されています。

令和3年度の3館の来館者数は4,952人でした。なお、元年度は約3,000人、2年度は約4,000人でしたので、毎年順調に増加しています。

来館者の内訳は個人のお客様が3,745人(76パーセント)、保育園・幼稚園などの団体のお客様が1,207人(24パーセント)でした。年齢層は5歳までの子供たちでほとんど占めており、木製玩具等で広い空間で自由に遊んでいます。また、木工工作づくりの人気も日増しに高まっており815人のお客様があり、団体のお客様が646人(79パーセント)、個人のお客様が169人(21パーセント)でした。子供会、老人クラブ、公民館活動、小学校の校外活動等で利用されています。指導は鳥取木材工芸振興会の皆様丁寧指導されており、トッキーノ館の木製玩具を製作していただいております。今後とも木にふれあい喜んでいただくように努めます。



オカリナ演奏会



木工教室



【いなつね短信発行者】鳥取県木材協同組合連合会

〒680-1203 鳥取市河原町稲常 113 21世紀の森 トッキーノ館内 電話 0858-71-0524 FAX0858-71-0529